公益財団法人ひろしま文化振興財団
令和６年度事業実施状況

令和７年６月

公益財団法人　ひろしま文化振興財団

1　文化活動活性化事業

（１）文化活動団体等への助成

県内の文化活動団体が実施する文化活動に対して財政的支援を行いました。

○文化活動団体支援事業

・ 郷土文化支援

下板木コミュニティー	黒川神儀保存会	（一社）ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト
郷土の伝統行事「信原田楽」の後継者育成・伝承のため、映像として伝える CD 及び DVD を作成	世羅町無形民俗文化財に指定されている「黒川神儀」の奉納映像を DVD・冊子形式で資料化し、今後の実施体制を再考	神楽文化の継承と人材育成を目的に、レクチャー、ワークショップ、奉納神楽公演を実施
福山聞き書き人の会	**國光神楽団**	
福山市内やその近隣地域の歴史、風土、生活、文化を「聞き書き」により記録した会報誌の制作	長年継承が途絶えていた神楽演目「蛇切り」の復活及びお披露目公演	

・ 文化のまちづくり支援

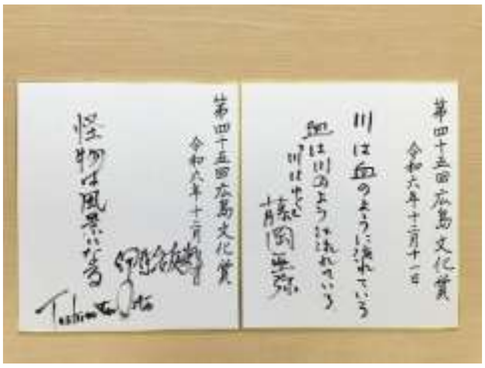
みやじまの町家に親しむ会	備後絣音頭をつなぐ会	演劇集団ふらっと
重要伝統的建造物群の保存活動の先進事例を学ぶため、講演会を実施	祇園祭発祥とされ、「備後絣音頭」が最初に踊られたといわれる神社で中秋の名月の日にコンサートを開催し、小中学生の三味線による「備後絣音頭」等を披露	被爆体験詩の朗読会及び写真展の実施 結成 10 年を機に、参加型被爆体験継承のモデルづくりを目指す。

（２）広島文化賞、ひろしま文化功労者表彰及び広島文化新人賞の贈呈

ア 広島文化賞

心豊かなうるおいのある地域社会の創造に寄与するため、地域文化の向上、普及に貢献した個人２名に「第４５回広島文化賞」を授与し、顕彰しました。

伊東　敏光 **（いとう　としみつ）** **美術(彫刻)** **広島市**	**藤岡　亜弥** **（ふじおか　あや）** **美術(写真)** **東広島市**
1994 年に創設した広島市立大学芸術学部の教員として、大学の立ち上げから尽力した。旧広島大学学校教育学部図書館、旧宇品陸軍糧秣支廠倉庫、サントリー宮島工場を活用した「都市の成熟と芸術の役割―歴史的建造物と芸術の共振展」を企画、作品展示するなど、彫刻と歴史的建造物、都市のあり方を繋げる新しい文化的試みを進めた。 県内外で地域密着型のアートプロジェクトを数多く手がけるとともに、アートディレクターとして若い芸術家の後進育成にも努めた。国内外での美術展に参加し、精力的に作家活動を続ける一方、様々な広島の美術展で審査員を務めたり、児童や一般の方を対象にしたワークショップを開催するなど、広島における芸術文化の裾野を広げる取組みを牽引している。	文化庁「新進芸術家海外派遣制度奨学生」としてニューヨークに滞在後、広島県内で活動を始め、地域おこし協力隊員として赴任した東広島市で活動を続けている。 ヒロシマをテーマとした連作で女性では初となる伊奈信男賞を、また三大写真賞である林忠彦賞、木村伊兵衛賞を受賞し、東京のほか海外でも多くの個展を開催している。 東広島市では、地域住民と協力し、ダムで水没した村の記憶をたどる冊子づくりなど、民俗学的な分野にも挑んでいるほか、西条酒蔵通りを巡り、撮影した写真を展示するワークショップの講師なども務めている。



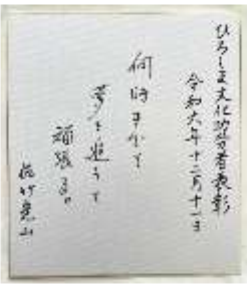
イ　ひろしま文化功労者表彰

永年にわたり、地域において芸術文化の振興及び発展に貢献した個人を「ひろしま文化功労者」として顕彰しました。

佐竹　定山
（さたけ　じょうざん）

音楽(邦楽)
福山市

1954（昭和 29）年に都山流尺八渡辺仲山に師事し、1967（昭和 42）年都山流尺八師範となる。1974（昭和 49）年、勤務先である日本鋼管に尺八部を設立したほか、地域における研修会など後進の指導を継続的に行い、尺八の普及発展に努め、1992（平成 4）年に都山流竹琳軒の称号を受け、広島県を代表する尺八の演奏家となる。
福山地域における邦楽演奏会など代表的な行事に多数出演する傍ら、福山文化連盟などの様々な役職を引き受け、地域文化発展のために尽力し、現在まで福山地域の邦楽界をリードしている。



ウ　広島文化新人賞

優れた文化活動を行う将来性があり今後の活躍が期待できる個人に対し、今後の活躍を期待し、奨励するため、顕彰しました。

亀川　果野
（かめがわ　かの）

美術(日本画)
広島市

広島市在住、２８歳。広島市立大学大学院博士後期課程芸術学研究科総合造形芸術専攻日本画研究在籍。美術家。広島市現代美術館広報臨時職員も務める。
言葉と絵画の関係性を考察し、絵画内にドローイング的に文字を書き入れることによって起こる視覚的作用を利用した作品を制作しており、日本画の材料やテクスチャーから、感触や言葉を切り口に日常につながるような表現を目指し、新たな日本画領域に挑戦している。
「広島市立大学芸術学部卒業修了作品展」作品優秀賞をはじめ、2023 年には「WATOWA　ART AWARD」で準グランプリ、各審査員賞を受賞。個展やアートプロジェクトに継続的に参加し、地元広島をはじめ東京など全国で精力的に活動中。

佐々木　悠
（ささき　ゆう）

音楽(宗教音楽)
広島市

広島市在住、４１歳。エリザベト音楽大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。現在、エリザベト音楽大学准教授。国際グレゴリオ聖歌学会日本支部（日本グレゴリオ聖歌学会）理事・事務局長及び大会実行委員長を務める。
国内外の学会でグレゴリオ聖歌に関する学術成果を定期的に発表し、オルガン・チェンバロの演奏者、グレゴリオ聖歌の指揮者としても国内外で活動。西洋音楽研究の中で根源的な分野でありながら、日本のメディアで取り上げられることの多くない一方、世界的な評価を得て注目を浴びている数少ない若手日本音楽学者である。東広島市立美術館におけるレクチャーコンサートや世界の子どもたちのためのチャリティーコンサートの開催など地域貢献にも継続的に携わっている。

 さとう　もぐも **美術(デザイン)** **広島市**	 **中曽　智子** **（なかそ　ともこ）** **美術(工芸)** **尾道市**
広島市在住、３０歳。比治山大学短期大学部美術科映像・アニメーションコース卒業。現在、フリーのデザイナー、イラストレーター、漫画家として制作活動している。柔らかいタッチのデザインや似顔絵を得意とし、「お客様に楽しんでいただくこと」をモットーに、町おこしやファミリー向けイベントのデザインを多く手がけ、イラストやデザインで大人から子どもまで楽しめる「やさしいスポーツ」の世界を目指す。 横川駅からエディオンピースウィング広島や広島ドラゴンフライズの応援へ行く道を「横川ビクトリーロード」と称してポスターや横断幕のデザインを制作するほか、東京ヤクルトスワローズとのコラボ漫画も制作し広島から全国にスポーツの楽しさを発信。また「性被害ワンストップセンターひろしま」のステッカーデザイン、熊野町公用車ラッピングイラストや広島「食」の観光キャンペーンキャラクターデザインなど県内のプロジェクトに積極的に携わる。個展「ひろしまもぐもぐ展」を広島市・東広島市で定期的に開催中。	尾道市在住、４２歳。美術家。尾道市立大学芸術文化学部美術学科デザインコース卒業、多治見市陶磁器意匠研究所技術コース修了。現在、尾道市立大学芸術文化学部美術学科非常勤講師を務める。 食と住まいの空間演出をテーマに、従来のとびかんな技法（削り道具の刃先を轆轤（ろくろ）で回転させた作品の表面に当て、表面に連続した削り模様をつける技法）を独自アレンジし、伝統的な装飾技法でありつつ現在の生活に取り入れやすい作品を制作。広島の陶芸家集団「タナゴコロ」に所属し、飲食店と共同して、食の新しい提案のプロジェクトにも参加。また、地域の祭りの舞台製作協力や地元企業との茶器開発・制作にも携わり、地域の文化芸術の発展に寄与。 大学教員として、尾道空き家再生プロジェクトの物件を自宅兼工房として改修し、授業教材として提供することで後進育成にも貢献している。

（３）ひろしまアートラウンジの開催

①　講演会「備後福山城の魅力」

広島文化新人賞の周知と受賞後の活躍への支援、福山城の歴史的価値を再確認していただく機会づくりを目的として、講演会を実施しました。

開催日	開催場所	内　容	参加者数
令和６年 ７月 13 日 （土）	広島県民文化センター ふくやま 文化交流室	第１部　講演「備後福山城の魅力」 講師　野毛幸司（広島県立文書館文書調査員・第４回広島文化新人賞受賞者） 第２部　対談「伏見城＆伏見櫓の実像に迫る」 対談者：野毛幸司・若林正博（京都府立京都学・歴彩館　主幹）	参加者　150 人

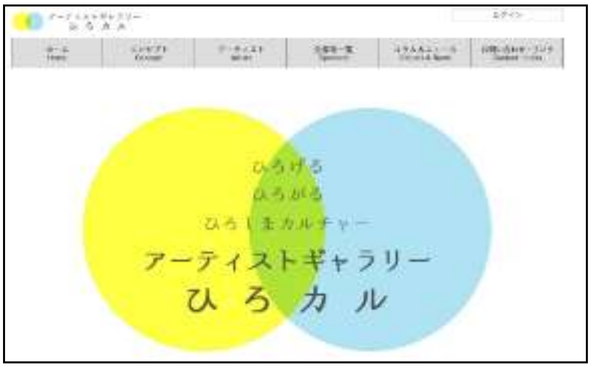
② んまつーポス身体表現ワークショップ

県内で文化事業に携わる人材がその活動内容を提供する場を設け、両者の交流促進等を図ることを目的として、県が実施する研修事業と連携して行う予定でしたが、台風 10 号の影響により中止しました。

開催日	開催場所	内　容	参加者数
令和６年 ８月 31 日 （土） 	広島県民文化センター 第１展示室	・プログラム： 親子の時間　～ゾンビがダンスでワンダフル～ 大人の時間　～価値観をゆさぶる　シン・身体表現～ ・講師：んまつーポス namstrops	各定員　20 人 申込み 親子の時間：14 人 大人の時間：18 人 台風 10 号の影響により中止

（４）「アーティストギャラリーひろカル」の運営

広島文化賞及び新人賞受賞者をはじめ、ひろしまにゆかりのあるアーティストの活動情報を公開し、アーティスト活動の場を拡充するとともに、会員をはじめ、広く県民に文化芸術に関する機会を提供するため、アーティストギャラリー「ひろカル」を運営しました。



（５）文化活動への共催

地域文化の振興を図るため、文化活動団体等と連携して事業を実施するとともに、文化事業に対し後援を行いました。（28 件）

○共催事業

事　業　名　称(主　催)	事業内容
第 18 回平山郁夫美術館賞絵画コンクール **（公益財団法人平山郁夫美術館）**	・会期 募集：令和６年５月 30 日(木)～9 月 20 日(金) 展示：令和６年 11 月～令和７年３月頃 ・会場：平山郁夫美術館 ・応募総数：3,071 点
けんみん文化祭ひろしま'２４ **（けんみん文化祭ひろしま実行委員会）**	・会期：令和６年９月８日(日)～12 月８日(日) ・会場：県内６市２町
瀬戸内絵画教室 **（公益財団法人平山郁夫美術館）**	・開催日：令和６年７月 27 日(土) ・場所：来島海峡サービスエリア ・講師：廣藤良樹（日本画家） ・参加者数：児童　７人

2　文化創造活動促進事業

（１）けんみん文化祭ひろしまの開催

けんみん文化祭ひろしま実行委員会（会長／広島県知事）の業務を受託するとともに、「けんみん文化祭ひろしま’２４」の開催に係る業務を行いました。

区　分	内　容
文芸部門 **（短歌、俳句、現代詩、川柳）** 	・作品を公募したところ、8,878（前年 9,000）作品が寄せられた。 （内訳：短歌 2,023 首、俳句 4,924 句、現代詩 451 編、川柳 1,480 句） ・審査会で 64 の入賞作品を選定 （内訳：短歌 16 首、俳句 16 句、現代詩 16 編、川柳 16 句） ・表彰式の開催 開催日：令和 6 年 12 月 8 日（日） 会場：広島県民文化センター　ホール ・入賞作品展 広島県民文化センター、広島県庁、広島県民文化センターふくやまで開催（令和 6 年 12 月～令和 7 年 2 月）
その他の分野別フェスティバル **（邦楽・日本舞踊、吟詠剣詩舞など舞台系８分野）** 	・分野別フェスティバル開催に向けた調整を行うとともに、開催当日の審査会を主催した。 開催日：令和 6 年 9 月 8 日(日)～12 月 8 日(日) 主催：各市町実行委員会 会場：東広島市豊栄生涯学習センターなど８箇所
展示フェスティバル **「クラフトの祭典－手芸・工芸－」** 	・クラフト作品（手芸・工芸）に焦点をあて，県内各地から広く出展作品を集め，展示した。 開催日：令和６年 11 月９日（土）～11 月 10 日（日） 会場：広島県民文化センター 展示室

（２）地域文化の活動拠点の運営

区　分	内　容	適　要
広島県民文化センター（広島・福山）の文化情報コーナーの運営	・文化・芸術情報等に関するポスター・チラシの掲示・配架 ・刊行物等の収集・掲出	・チラシ受入数　3,078 枚　(3,293 枚) ・ポスター受入数　894 枚（867 枚） ・刊行物等受入数 2,716 件（2,798 件） ・図書受入　　　73 冊（47 冊）
来館者数	・広島 12,394 人（12,990 人）　・福山 7,101 人（7,597 人）	
ひろしま文化・芸術情報ネット(ブンカッキーネット)の運営 	・情報収集・入力（更新） ・掲載情報の管理 ・新規情報網の開拓 ・電話等問合せへの対応	・イベント登録件数 2,154 件（1,788 件） ・オンラインマガジン掲載件数 13 件（15 件） ・文化団体リレーレポート掲載件数 14 件（16 件） ・特集記事掲載件数 2 件（0 件）
ひろしま文化大百科の運営 		・トピックス登録件数 5 件（5 件）

（３）文化施設職員等研修事業

県内全域の文化芸術振興の核となる人材の育成を目的に県内の文化行政担当者、文化施設職員、文化事業に携わる人材等に、文化芸術と社会を結ぶ手法等について学ぶ機会として研修会を開催しました。

開催日（開催場所）	テーマ	概　　要
令和６年８月 22 日（木） （広島県民文化センター ５０１・５０２） 	多様な人々に文化芸術を届ける取り組みから考えるこれからの文化事業の語り場 	・講師： ファシリテーター石川清隆（東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科(GA) 特任助手、ワークショップデザイナー） ・事例紹介者： 村尾剛志（丸亀市協働推進部 まなび文化課長、（公財）丸亀市福祉事業団市民会館開館準備室長） 下江祥友（ジーベックホール（府中市文化センター） 指定管理者 （株）賛興） 竹内孝志（和太鼓奏者 我龍 garyu 代表 ジーベックホール事業協力） ・参加者数：26 人

令和６年８月 31 日（土） （広島県民文化センター 第１展示室） 	ダンスワークショップ体験講座	・プログラム： 親子の時間　～ゾンビがダンスでワンダフル～ 大人の時間　～価値観をゆさぶるシン・身体表現～ ・講師：んまつーポス namstrops 台風 10 号の影響により中止
令和７年２月１日（土） （広島県民文化センター展示室） 	＼舞台芸術をともに楽しむ／ 鑑賞サポート講座	・モデレーター・ファシリテーター：石川清隆(東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科(GA)特任助手、ワークショップデザイナー) ・事例報告者：端野真佐子（NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)、コーディネーター）、広島手話劇団「伝」 ・参加者数：26 人